

科学館の



110

苦土電気石

資料登録番号
2008-207

今回は、電気石という鉱物を紹介します。電気石というのは、正確には鉱物の名前ではなく、たくさんの鉱物のグループの名前で、電気石グループの中には「○○電気石」というような名前の鉱物がたくさん含まれています。この苦土電気石の「苦土」とはマグネシウムを意味しており、電気石グループの中でもマグネシウムに富んだ化学組成の鉱物です。

「電気石」という名前からして、「電気」と「石」がくっついている名前に不思議な感じを受けるかもしれませんが、普通の石は電気を通さない物質ですから、石と電気は関係がなさそうな気がします。

そんな不思議な名前の電気石ですが、その名前は、電気石の結晶を加熱したり加圧したりすると結晶の両端に電位差(電圧)を生じることが由来になっています。

電気石グループは多くが三角柱に近い形の細長い結晶に成長します。この細長い結晶の端の面を観察すると、少し興味深いことに気づきます。細長い結晶の端は、3つの結晶面が背の低い三角錐型になっているのですが、その面のつき方が、両端で違っているのです。

普段は展示ケースの中にあるので、標本の両端を比べてみたりすることはないかもしれませんが、今度3階の「鉱物いろいろ」を見学されるときには、いろいろな角度から観察してみてください。

飯山 青海(科学館学芸員)

